

# ブルーレースフラワーの新品種 ‘岡山BLF 1号’

藤本 拓郎・土居 典秀・森 義雄・綱島 健司・中島 拓\*

A New Blue Lace Flower Cultivar ‘Okayama BLF 1 go’

Takuro Fujimoto, Norihide Doi, Yoshio Mori, Kenji Tsunashima and Taku Nakajima\*

## 緒言

ブルーレースフラワーは、オーストラリア原産のセリ科一年草で日本へは大正時代末期に導入された。その名のとおり繊細なレース状の花で、花色、草姿に人気があり、フラワーアレンジメントや花束の材料として需要が高い。夏の高温期を除き施設で栽培され、栽培地域は初夏は高冷地、冬から春は暖地が中心となっている。

岡山県では、南部の笠岡地域で1997年頃から栽培が始まった。しかし、市販品種は側枝が横へ広がり、収穫時にフラワーネットに絡むため作業性が悪いことなどから徐々に栽培面積、戸数ともに減少している。

このたび、市販品種と比較し側枝が横へ広がらない立性のブルーレースフラワー新品種 ‘岡山BLF 1号’ を育成したので、その育成経過と特性の概要を報告する。

## 育成経過

2002年に岡山県農業総合センター農業試験場（現岡山県農林水産総合センター農業研究所）で、市販品種の中から側枝が横へ広がらない立性の個体を選抜し、2004年～2007年に系統選抜、2008年～2010年に特性調査を行った。その結果、市販品種と比べ側枝が横へ広がらず、有望と認められた1系統について、2012年6月に種苗法に基づいて品種登録を出願申請し、同年9月に ‘岡山BLF 1号’ の品種名で出願公表された（出願番号第27156号）。

## 品種特性

### 1. 試験方法

2009年9月16日に200穴セルトレイに播種し、11月2日に条間40cm、株間20cmの2条で雨除けハウス内に定植した。活着後摘心し、1株3本に整枝した。加温温度は10℃とし、摘心後は電照による22時～2時の暗期中断を行った。

特性調査は、農林水産植物種類審査基準（農林水産省品種登録HP）のアシタバ属にしたがって、岡山県農林水産総合センター農業研究所圃場において(株)ミヨシ、福花園種苗(株)の品種と比較調査した。

### 2. 結果及び考察

#### (1)草姿

草姿は、市販2品種が開張であるのに対し ‘岡山BLF 1号’ は立性である。 ‘岡山BLF 1号’ の草丈は101cmであり、市販2品種より20cm程度短く、莖径は10mmで市販2品種より2mm程度細い。側枝の分枝角度は、 ‘岡山BLF 1号’ で最下部、5節目ともに18°程度であったのに対し、市販2品種では、最下部で30°程度、5節目で26°から28°であった。側枝数は、 ‘岡山BLF 1号’ と市販2品種で大きな差は無かった（表1, 写真1）。

以上のことから、 ‘岡山BLF 1号’ は市販2品種より草丈は短くなるが、側枝の分枝角度が小さいため側枝が横へ広がらず、収穫時の作業性が改善すると考えられる。

#### (2)開花特性及び花姿

ブルーレースフラワーの花は、小花が集まった集合花（以下、花とする）であり、開花すると半球形にな

る(写真2)。「岡山BLF1号」の平均開花日は、4月19日であり、市販2品種より4~7日遅かったが、開花揃いは良かった。「岡山BLF1号」の花径は4.5cm、花数は54個、花色は浅青紫で、市販2品種と大きな差は無かった(表2、写真3)。

以上のことから、「岡山BLF1号」は市販2品種より若干開花が遅いが、開花揃いが良く、花の大きさ、花数、花色は同等であり、商品性に問題は無いと考えられる。

表1 「岡山BLF1号」の草姿

| 品種名       | 草姿 | 草丈<br>(cm) | 茎径<br>(mm) | 側枝の分枝角度(°) |      | 側枝数<br>(本) |
|-----------|----|------------|------------|------------|------|------------|
|           |    |            |            | 最下部        | 5節目  |            |
| 岡山BLF1号   | 立性 | 101.3      | 10.1       | 18.0       | 18.6 | 11.9       |
| 市販品種(ミヨシ) | 開張 | 123.4      | 12.1       | 32.3       | 28.4 | 12.7       |
| 市販品種(福花園) | 開張 | 125.6      | 12.5       | 30.7       | 26.0 | 13.3       |



左:岡山BLF1号 中:市販品種(ミヨシ) 右:市販品種(福花園)

写真1 草姿の比較

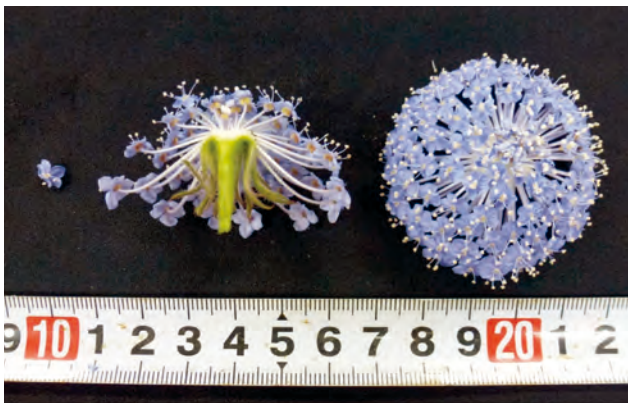


写真2 「岡山BLF1号」の花(集合花)



左:岡山BLF1号 中:市販品種(ミヨシ) 右:市販品種(福花園)

写真3 花(集合花)の比較

表2 「岡山BLF1号」の開花特性及び花姿

| 品種名       | 平均開花日<br>(月日) | 開花揃い | 花径 <sup>2</sup><br>(cm) | 花数 <sup>3</sup><br>(個) | 花色         |
|-----------|---------------|------|-------------------------|------------------------|------------|
|           |               |      |                         |                        | JHSカラーチャート |
| 岡山BLF1号   | 4月19日         | 良    | 4.5                     | 54.3                   | 浅青紫(8003)  |
| 市販品種(ミヨシ) | 4月12日         | 悪    | 4.9                     | 56.7                   | 浅青紫(8003)  |
| 市販品種(福花園) | 4月15日         | 中    | 4.8                     | 57.8                   | 浅青紫(8003)  |

<sup>2</sup>集合花の直径

<sup>3</sup>集合花/株

### 栽培上の留意点

市販品種に比べて草丈が短いため、本品種に適する作型は、比較的草丈が伸びる秋播き春収穫と考えられる。生育期が短日となる作型では、電照による長日処理が必要である。

### 摘 要

‘岡山BLF1号’は、岡山県農林水産総合センター農業研究所において育成されたブルーレースフラワーの新品種で、その育成経過及び特性は次のとおりである。

1. ‘岡山BLF1号’は、2002年に市販品種から個体選

抜し、2004年～2007年に系統選抜、2008年～2010年に特性調査を行った結果、有望と認められた1系統である。2012年6月に品種登録を出願申請し、同年9月に出願公表された。

2. 草姿は、市販品種より側枝の分枝角が小さく立性である。また、草丈、茎径は市販品種より短く、細い。
3. 平均開花日は、市販品種より遅いが、開花揃いは良い。また、花径、花数、花色は、市販品種と大きな差はない。

### 引用文献

農林水産省品種登録ホームページ, [http://www.hinsyu.maff.go.jp/info/sinsakijyun/botanical\\_taxon.html](http://www.hinsyu.maff.go.jp/info/sinsakijyun/botanical_taxon.html).

### Summary

‘Okayama BLF 1 go’ is a new blue lace flower cultivar released by Research Institute for Agriculture Okayama Prefectural Technology Center for Agriculture, Forestry and Fisheries. In 2002, ‘Okayama BLF 1 go’ was individually selected from commercial variety, and line selection was carried out from 2004 to 2007. The characteristic investigation of ‘Okayama BLF 1 go’ was performed from 2008 to 2010.

A characteristic of this variety is that a lateral branch does not expand.